

ジャッキー・ロビンソン選手のバット

ジャッキー・ロビンソン選手は、大リーグ初のアフリカ系アメリカ人（厳密には20世紀になって初）として、白人以外の選手たちに大リーグへの道を切り開いた功労者です。大学中退後、陸軍、ニグロ・リーグを経て、1945年にドジャース傘下のマイナー・リーグと契約。1947年に大リーグに昇格し、数々の差別や困難の中で盗塁王となり新人王を獲得しました。1949年には首位打者と盗塁王になりMVPに選ばれています。

1956年秋、ドジャースは単独チームで来日。巨人や全日本などと19試合を行いました。ロビンソン選手は、18試合に出場し打率.327と活躍しましたが、この年限りで現役を引退しています。写真のバットは、この日米野球で試合中に折ったものを後楽園のバットボーイをしていた大学生がもらったもので、約40年後の1995年に野茂投手がドジャースで大活躍をした時に、このバットのことを思い出して当館へ寄贈して下さいました。

背番号42は1972年にドジャースの永久欠番、さらに1997年からは大リーグ全体の欠番となっています。日本では42番の着用が可能なので、来日外国人選手には、巨人のクルーン投手のようにロビンソン選手への尊敬や憧れから42番をつける選手が多くいます。



歴史の重みを感じさせるJ・ロビンソン選手のバット